

## 三井住友FL、シンガポール現法25億円増資 不動産に投資

2023/06/29 15:31 日本経済新聞電子版 595文字

三井住友ファイナンス&リース（SMFL）はアジアなどで実物資産への投資を増やす。子会社のSMFLみらいパートナーズがシンガポールに不動産投資の拠点を設ける。同国の現地法人に25億円を追加出資したほか、新たに5人を派遣する。アジア・太平洋地域で不動産や発電設備、船舶など実物資産の運用や売買を通じて利益を稼ぐ体制を整備する。

シンガポールで不動産事業をてがけるSMFLみらいパートナーズシンガポールに人材を送り、7月から本格展開する。これまでは無人拠点だった。不動産運用会社のケネディクス、シンガポール不動産投資ファンドのARAアセットマネジメントと共同で運営する。

タイやベトナム、オーストラリアなどの資産にも投資する方針。1件当たりの投資規模は40億～50億円程度を見込む。将来は1000億円規模の資産を運用することを目指す。

アジアで安定した賃料や利回りを狙えるオフィスビルを中心に投資する。物流施設やホテルの投資も検討する。数年での売却を前提とする。不動産だけでなく太陽光など再生可能エネルギーの発電設備や船舶にも投資し、運用や売却で利益を稼ぐ。

SMFLは2025年度までの中期経営計画で、資本効率を高めるために資産を売買して利益を稼ぐ資産回転型のビジネスを強化する方針を掲げる。日本の銀行に対する規制を受けないSMFLみらいパートナーズを通じてアジアの投資ビジネスを強化する。

（高橋理穂）

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.

許諾番号30094279 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。